

# 日本脳炎

日本脳炎は、高熱、頭痛、おう吐などで始まり、その後けいれん、意識障害などの脳炎症状を認めます。日本脳炎ウイルスを持っているブタがさした蚊(主にコガタアカイエカ)が人を刺して感染します。感染しても多くは無症状ですが、脳炎になると、15%が死亡し、回復しても約半数が運動機能や知能に後遺症を残します。例年日本脳炎ウイルスを保有するブタが西日本を中心に確認されており、他県では、1歳未満の発症例もあります。

標準的な接種期間は3歳からですが、日本小児科学会はブタの日本脳炎抗体保有率が高い地域は生後6ヶ月からの接種をすすめていることから、山都町でも生後6ヶ月からの接種をおすすめしています。